# 第11期 報告書

2006年7月1日▶2007年6月30日

証券コード：3836

DIVA 10th ANNIVERSARY SINCE 1997

DIVA®

*To be opened to change!*

# Business Model

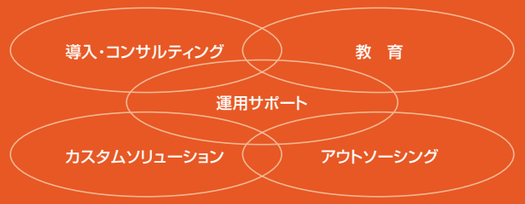
## 「連結決算の現場でお役に立てる」という目的を果たすべく私たちDIVAは、連結会計の経験・知識・ノウハウをソフトウェアに凝縮しました。

DIVAは、お客様の経営品質の向上に貢献するために、連結経営という経営モデルの推進・定着化を目指し、ソフトウェア製品やプロフェッショナルサービスの開発・提供を行っている連結経営に特化したビジネスソリューションカンパニーです。

### Software Products［ソフトウェア製品］

ソフトウェア製品として、「連結会計システム」「計画・予算策定システム」「経営情報活用システム」の3システムを提供しています。
「連結会計システム」は、連結決算業務を革新的に効率化する自社開発のDivaSystemを、「計画・予算策定システム」は、事業計画精度を向上するための有効な四半期・月次ローリングフォーキャストマネジメントをサポートしています。そして、「経営情報活用システム」は各部門やグループ企業と、計画・予算と実績の比較データや、連結決算の結果データ、経営指標などの経営情報の共有を行うためのサービスを提供しています。

### Professional Service［プロフェッショナルサービス］




プロフェッショナルサービスでは、対象とする業務分野を絞り込むことで、専門性の高いスタッフが製品の導入・保守を超えた業務全般をサポートします。
「導入・コンサルティング」はお客様のご要望に応じたソリューションの導入や展開のためのコンサルティングを行い、「カスタムソリューション」では、当社製品の開発ノウハウを活かし、パッケージだけでは実現できない要望など、お客様独自のニーズにお応えするシステム開発サービスを提供します。また、「運用サポート」では製品の使用方法だけでなく、お客様が直面する様々な課題に対してサポートを行います。そして「教育」ではシステムの使用方法だけでなく連結決算の実務を速習できる講座を提供し、「アウトソーシング」では、人材育成を含めた業務ノウハウの効率化を視野に入れた請負サービスを行います。



# DIVA® Top Interview

トップインタビュー

株主の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第11期の報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当社は1997年5月設立以来、連結経営を展開するグループ企業様向けに、会計業務を支援するパッケージソフトウェアの開発・販売・導入支援サービス、ソリューションを提供してまいりました。以来、着実に成長を遂げ、2007年2月ヘラクレス市場に上場し、この度株主の皆様へ事業報告をする運びとなりました。

当期（2006年7月1日～2007年6月30日）の業績につきましては、売上高25億円（前期比23.0%増）、経常利益3億円（前期比116.4%増）、当期純利益2億円（前期比123.5%増）と過去最高益を計上いたしました。今後も、連結会計システムの拡販を中心としながら、さらに計画・予算策定システムや経営情報活用システム分野へ取り組みソリューションの幅を広げ、よりお客様のお役に立てる製品・サービスの開発・提供を目指してまいります。

2007年9月

代表取締役社長　森川 徹治

日本経済が堅調に回復し、企業のIT投資が好調なソフトウェア業界において、DIVAは2007年2月ヘラクレス市場に株式を公開。内部統制・会計の四半期開示の義務化など追い風が吹くなか、DIVAの現在と今後の戦略について、森川社長に語っていただきました。

## Q 1.好調な業績の要因についてお聞かせください。

### 主力製品である“DivaSystem”のライセンス販売が好調に推移し、利益を押し上げました。

まず、当社売上の収益源を大きく分けますと3つになります。1つ目は、連結会計パッケージソフトウェアDivaSystemのライセンス販売。2つ目は、DivaSystemを使用する際のコンサルティングサービス。そして3つ目は、メンテナンスサポート※1 になります。

当期においては特に、DivaSystemのライセンス販売が好調に推移し、その背景として企業の業績好調によるIT投資の積極化に加え、日本版SOX法※2 対応に向けた内部統制確立のためのIT活用により、情報産業全体が非常に活況になったことがあげられます。内部統制システムは、これまでは大企業が中心となって構築を進めていましたが、現在では中堅企業のシステム投資意欲も高まり、より多くのお客様から引き合いをいただいております。2007年6月末現在のDivaSystemのご利用お客様数は495社となり、販売は着実に伸びております。

※1. DIVAのメンテナンスサポートはソフトウェアだけでなく、連結決算業務全般が円滑にすすむよう、実務面も含めたサポートを含む。
※2. 会計監査制度の充実と企業の内部統制強化を、米国のサーベンス・オクスリー法（SOX法）に倣って整備した日本の法規制。

## Q 2.今後のビジネス展開をどのようにお考えですか。

### 約500社のお客様を1,000社に。その子会社10,000社にDivaSystemを使っていただきたい。

現在、DivaSystemは約500社のお客様にご利用いただいておりますが、今後は1,000社のお客様にご利用いただくことを目指します。それも、販売したソフトウェアの数ではなく、ご利用いただくお客様数を1,000社にしていくことです。この目標を、これまでの10年で500社のお客様に販売いたしましたことを考えますと、最長で8～10年かけて達成してまいります。

そして、もう1つの目標が、お取引のあるお客様の子会社様にもDivaSystemをご利用いただくことで、10,000社のお客様とお取引するという目標です。これは一見大きな数字にみえますが、実現できる目標値であると考えております。先にも申し上げましたが、当社は現在500社の親会社様にDivaSystemをご利用いただいております。その親会社様が平均20社の子会社様をお持ちだといたしますと、単純な掛け算で10,000社となり、間接的にではありますが、親会社への決算報告といった形で10,000社がご利用いただくこととなります。

ただし、現在はまだ、子会社様にとって利便性の高い製品にはなっているとはいえないので、これからはプラットフォームをもっと使えるものに仕上げるなど、世界中の会社様にとって利用価値のある製品開発を行ってまいります。この度のヘラクレス市場への上場で調達した資金は、この製品開発に集中投資する考えであり、株主の皆様のご期待に沿えるよう、全力をつくしてまいります。

## Q 3.株主の皆様へメッセージをお願いします。

### 計画したこと、言ったことを確実に実行する会社でありたい。

まず、当社が株主の皆様のためになすべきことは、3つあると考えております。

1つは、事業を継続的に安定成長させ続けること。投資対象として魅力的な存在であるためには、年間20%～30%の成長を持続していくことが必要と考えております。そしてもう1つは、株主の皆様への安定的な配当を行うことです。当社は、剰余金の配当を株主還元政策の重要事項と位置付けており、配当性向を基準として業績に連動した配当を安定的に実施していくことを基本方針としております。現在は配当性向 10%程度を目処とし、当期における配当額は１株当たり1,900円とさせていただきました。

最後になりますが、私の経営信条として企業が安定成長し、ステークホルダーの皆様から信頼される企業であるためには、有言実行が重要であると考えております。たとえば、当期の業績実績値において、ほぼ計画どおりに上ぶれも下ぶれもしなかったように、四半期ごとに計画値と実績値がほぼ合致することが１つの条件になると考えております。

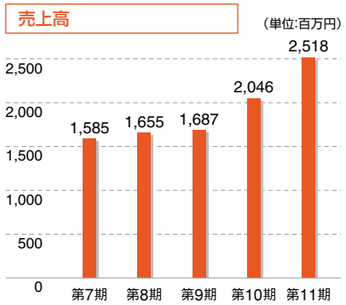
また、お客様にとって満足度の高いサービスを提供し続けていくこと。当社では、一度ソフトウェアを購入していただいたお客様に対しては、その後のバージョンアップは保守料のなかで無料で行うなど、買い直していただくことを一切行っておりません。これもまた、当社のマインドとして、信頼を得て、継続的な利用者の確保につながるものと考えます。これからも、株主･投資家の皆様のご期待に応えてまいる所存ですので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

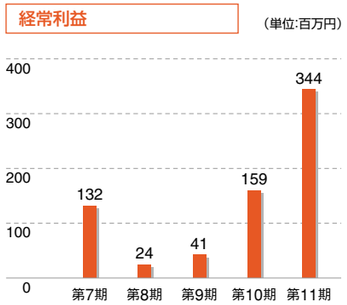
## ■財務ハイライト

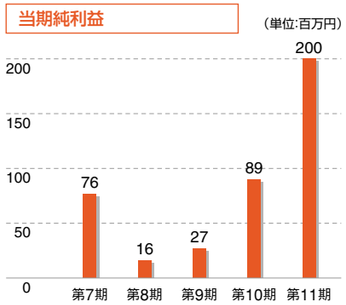
売上高
**25億18百万円**
（前期比23.0%増）

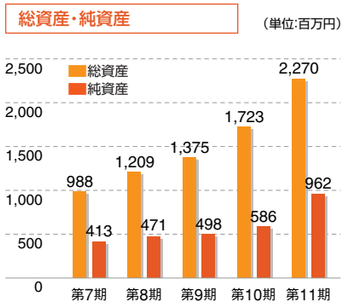
経常利益
**3億44百万円**
（前期比116.4%増）

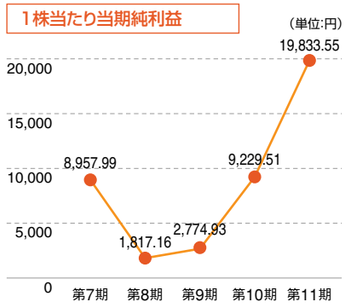
当期純利益
**2億円**
（前期比123.5%増）




（注）当社は、2006年9月27日付で株式1株につき5株の株式分割を行っております。上記では当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の1株当たり指標の推移を表記しております。

# DivaSystemの概要

連結会計の現場をプロフェッショナルの目でとらえ、システム・業務サイドから価値のある最適なソリューションを提供いたします。

当社主力製品の「DivaSystem」は、お客様のご利用実績に基づいたご意見と、情報技術の発達、会計理論・制度改定に対応した、最新の連結会計業務におけるデータ収集・連結処理・データ出力をサポートいたします。

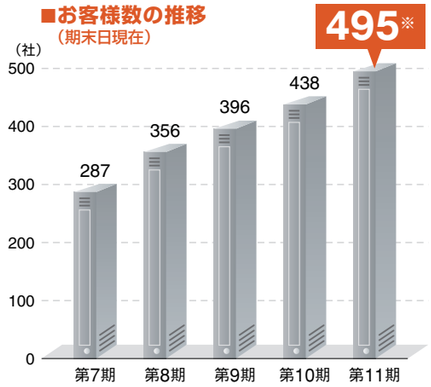
**継続的に成長する製品として**

「DivaSystem」は1997年にリリースされたVer.1.0から最新Ver.9.0（2007年9月現在）において同一のアーキテクチャを維持し、バージョンアップの際のデータ移行や互換性を重視した、継続的な製品改良を行っております。

**圧倒的なパフォーマンス**

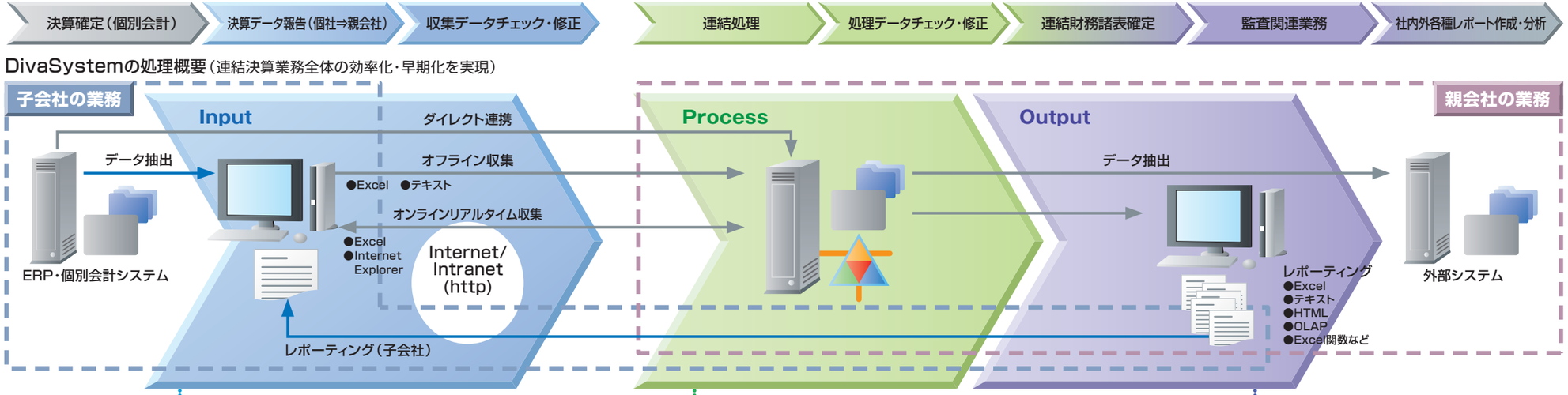
「DivaSystem」で処理されるデータは処理目的ごとに最適化され、リレーショナルデータベースに格納されます。また、圧倒的な高速自動処理と高いデータ利用効率の実現、Webインフラを通じた企業間でのデータのやりとりについて柔軟なソリューションをご提供します。

**■お客様数の推移**
（期末日現在）




※累計販売実績約500社のうち、約60%が東証一部上場企業であり、日本企業の時価総額上位50社のうち、シェア40%を占める。

**連結決算業務の流れ**




## Input（データ収集）

**子会社からの各種データ収集機能**
- 制度連結用データ
- 管理連結用データ
- 非会計データ（注記情報、お客様独自の情報）

**多様なデータ収集方式**
- ERP・個別会計との連携（ダイレクト連携、テキスト連携）
- オンラインリアルタイム収集（Web、Excel）
- オフライン収集（Excel）
- お客様仕様のExcelシートを利用した収集も可能

## Process（連結処理）

**高い利用率**
- 制度を先取りした機能の実装とお客様からのフィードバック
- 持分比率算定から連結CFS作成までを一括処理

**圧倒的な高速自動処理**
- 制度連結処理・管理連結処理
- 大半のケースでは、数分程度で自動処理を全て完了（200社を超える場合でも10分以内での完了実績あり）

**柔軟なデータモデリング**
- 積上・差引処理（本格的な月次・四半期処理への対応）
- 予算・見込み連結への対応
- シミュレーション機能
- 処理の前倒し

**有用な先進機能**
- セグメント処理（セグメント別連結処理、セグメント配賦機能）
- 2006年4月以降適用の制度改定に対応済み（連結株主資本等変動計算書に関する会計基準など）
- リアルタイム精算表と分析レポート

## Output（データ出力）

**豊富な標準帳票**
- 標準帳票を250種類以上提供
- Excelへの直接出力が可能
- レポート間のジャンプ機能を装備

**柔軟なデータアクセス**
- データ出力に適したデータモデリング
- Excel関数（ディーバ提供）を用いた独自レポートの作成
- OLAPツールによるレポーティング環境の提供
- 外部システムへのデータ受け渡し

**グループによる情報共有**
- 処理後のデータを子会社へフィードバック
- 子会社間でのデータ相互参照
- オンライン収集Excelシートのダイレクト出力（一括出力）

# Financial Statements

財務諸表

## ■貸借対照表

（単位：千円）

| 科　目 | 当　期（2007年6月30日現在） | 前　期（2006年6月30日現在） |
|---|---|---|
| （資産の部） | | |
| 流動資産 | 1,985,143 | 1,498,816 |
| 現金及び預金 | 1,316,183 | 1,076,024 |
| 売掛金 | 458,247 | 281,949 |
| 仕掛品 | 74,223 | 84,506 |
| 前払費用 | 34,141 | 36,862 |
| 繰延税金資産 | 45,908 | 18,591 |
| その他 | 56,439 | 882 |
| 固定資産 | 285,029 | 224,657 |
| 有形固定資産 | 144,430 | 48,691 |
| 建　物 | 18,177 | 15,396 |
| 工具器具備品 | 37,278 | 33,295 |
| 建設仮勘定 | 88,974 | — |
| 無形固定資産 | 7,273 | 28,835 |
| ソフトウェア | 6,161 | 27,623 |
| その他 | 1,112 | 1,212 |
| 投資その他の資産 | 133,324 | 147,130 |
| 敷金・保証金 | 116,267 | 133,177 |
| その他 | 17,056 | 13,953 |
| 資産合計 | 2,270,172 | 1,723,473 |

募集株式の発行により現金及び預金が増加したほか、第4四半期の売上高が前期に比べ増加したことを主な要因として売掛金が増加したこと等により流動資産は前期に比べ486百万円増加しております。

新IT環境を構築中であり、当期は建設仮勘定の計上により有形固定資産が前期に比べ95百万円増加しております。

（単位：千円）

| 科　目 | 当　期（2007年6月30日現在） | 前　期（2006年6月30日現在） |
|---|---|---|
| （負債の部） | | |
| 流動負債 | 1,022,921 | 737,217 |
| 買掛金 | 26,179 | 78,127 |
| 1年以内返済予定の長期借入金 | 51,646 | 51,306 |
| 1年以内償還予定の社債 | 40,000 | 40,000 |
| 未払金 | 184,066 | 74,393 |
| 前受収益 | 400,039 | 333,726 |
| その他 | 320,990 | 159,663 |
| 固定負債 | 284,852 | 400,199 |
| 社　債 | 175,000 | 215,000 |
| 長期借入金 | 56,323 | 107,969 |
| リース債務 | 5,141 | 10,095 |
| 繰延税金負債 | 48,387 | 67,134 |
| 負債合計 | 1,307,773 | 1,137,416 |
| （純資産の部） | | |
| 株主資本 | 962,398 | 586,057 |
| 資本金 | 268,400 | 176,400 |
| 資本剰余金 | 205,200 | 113,200 |
| 利益剰余金 | 488,798 | 296,457 |
| 純資産合計 | 962,398 | 586,057 |
| 負債及び純資産合計 | 2,270,172 | 1,723,473 |

流動負債については、事業活動の拡大及びお客様数の順調な増加を主な要因として、未払金、前受収益の増加等により前期に比べ285百万円増加しておりますが、固定負債は社債の償還及び借入金の返済が進み前期に比べ115百万円減少しております。これらの結果、負債合計は前期と比べ170百万円増加しております。

## ■損益計算書

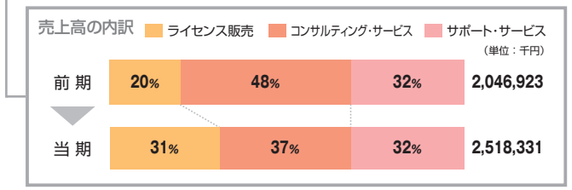
（単位：千円）

| 科　目 | 当　期（2006年7月 1日から2007年6月30日まで） | 前　期（2005年7月 1日から2006年6月30日まで） |
|---|---|---|
| 売上高 | 2,518,331 | 2,046,923 |
| 売上原価 | 880,999 | 965,047 |
| 売上総利益 | 1,637,331 | 1,081,876 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,281,840 | 911,604 |
| 営業利益 | 355,491 | 170,272 |
| 営業外収益 | 964 | 7 |
| 営業外費用 | 12,069 | 11,116 |
| 経常利益 | 344,386 | 159,162 |
| 特別損失 | — | 12,385 |
| 税引前当期純利益 | 344,386 | 146,777 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 189,600 | 72,800 |
| 法人税等調整額 | △46,063 | △15,871 |
| 当期純利益 | 200,849 | 89,849 |

## ■キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

| 科　目 | 当　期（2006年7月 1日から2007年6月30日まで） | 前　期（2005年7月 1日から2006年6月30日まで） |
|---|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 258,870 | 456,261 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △87,506 | △98,468 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 68,793 | 71,562 |
| 現金及び現金同等物の増加額 | 240,158 | 429,355 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,076,024 | 646,669 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,316,183 | 1,076,024 |




## ■株主資本等変動計算書　当期（2006年7月1日から2007年6月30日まで）

（単位：千円）

| | 株主資本 | | | | | | | | 純資産合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | | | 株主資本合計 | |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | 利益準備金 | その他利益剰余金 | | 利益剰余金合計 | | |
| | | | | | プログラム等準備金 | 繰越利益剰余金 | | | |
| 2006年 6月30日 残高 | 176,400 | 113,200 | 113,200 | 374 | 143,990 | 152,092 | 296,457 | 586,057 | 586,057 |
| 事業年度中の変動額 | | | | | | | | | |
| 新株の発行 | 92,000 | 92,000 | 92,000 | | | | | 184,000 | 184,000 |
| プログラム等準備金の取崩 | | | | | △23,748 | 23,748 | — | — | — |
| 剰余金の配当 | | | | | | △8,508 | △8,508 | △8,508 | △8,508 |
| 当期純利益 | | | | | | 200,849 | 200,849 | 200,849 | 200,849 |
| 事業年度中の変動額合計 | 92,000 | 92,000 | 92,000 | — | △23,748 | 216,089 | 192,341 | 376,341 | 376,341 |
| 2007年 6月30日 残高 | 268,400 | 205,200 | 205,200 | 374 | 120,242 | 368,182 | 488,798 | 962,398 | 962,398 |

# Stock Information（2007年6月30日現在）

株式の状況

## 株式の状況

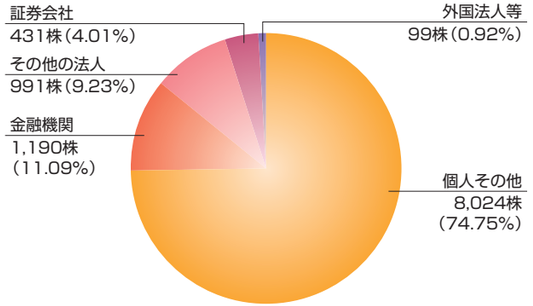
| | |
|---|---|
| 発行可能株式総数 | 38,940株 |
| 発行済株式の総数 | 10,735株 |
| 株主数 | 822名 |

**株式に関する重要な事項**
1）2006年9月27日付で1株を5株とする株式分割を実施しております。
2）2007年2月7日を払込期日とした公募により1,000株の新株式を発行しております。

## 大株主

| 株主名 | 持株数（株） | 出資比率(%) |
|---|---|---|
| 森川　徹治 | 3,250 | 30.27 |
| ディーバ従業員持株会 | 1,081 | 10.07 |
| 大阪証券金融株式会社 | 533 | 4.97 |
| 日本トラスティ･サービス信託銀行株式会社（信託口） | 530 | 4.94 |
| 野城　剛 | 500 | 4.66 |
| 株式会社オービック ビジネスコンサルタント | 500 | 4.66 |
| ニイウスコー株式会社 | 375 | 3.49 |
| 森川　敬之 | 300 | 2.79 |
| 弥左　貴幸 | 183 | 1.70 |
| 小峰　俊之 | 160 | 1.49 |

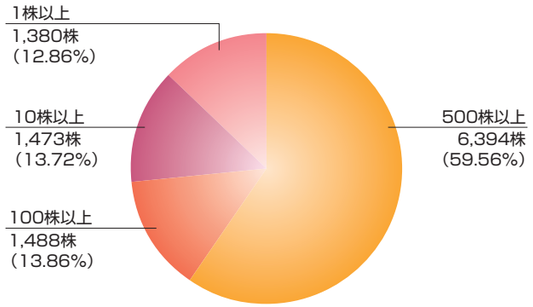
## 所有者別株式分布状況




## 沿　革

1997年 5月　東京都大田区大森に株式会社ディーバ(資本金11,000千円)を設立
10月　DivaSystemの販売を開始
1999年 8月　大阪市北区西天満に大阪支社を開設
2001年 9月　本社を東京都大田区蒲田(現所在地)に移転
2002年 6月　連結会計業務支援の一環として連結会計実務講座を開始
2004年 1月　連結決算業務のアウトソーシングサービスを開始
2005年10月　DivaSystem累積使用ユーザ数400社を達成
11月　大阪支社を大阪市北区堂島に移転
2006年 6月　計画･予算策定システムソリューション提供を開始
2007年 2月　株式会社大阪証券取引所ニッポン･ニュー･マーケット「ヘラクレス」に上場

## 所有株数別株式分布状況







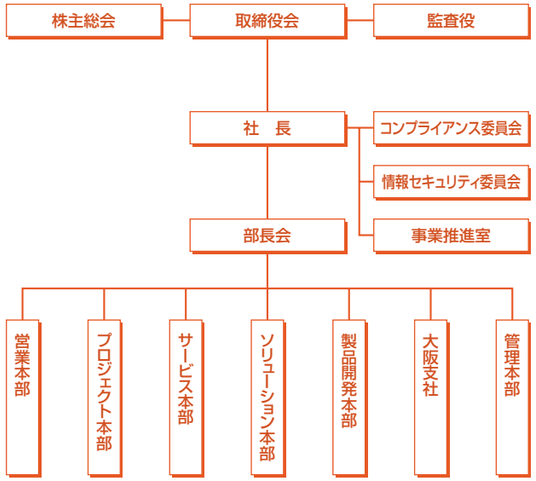

# Corporate Data（2007年6月30日現在）

会社の概要

## 会社概要

| | |
|---|---|
| 商　号 | 株式会社ディーバ |
| 設　立 | 1997年5月26日 |
| 資本金 | 2億6,840万円 |
| 所在地 | 〒144-8721 東京都大田区蒲田五丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア11F |
| 電話番号 | 03-5480-7600(代表) |
| 主要業務 | ビジネスソリューションパッケージの開発･ライセンス販売･コンサルティングサービス･サポートサービスなど |

## 組織図（2007年7月1日現在）




## 役　員（2007年9月26日現在）

**取締役**

| | |
|---|---|
| 代表取締役社長 | 森川 徹治 |
| 取締役 | 野城 剛 |
| 取締役 | 沖野 元司 |
| 取締役 | 村瀬 協吾 |

**監査役**

| | |
|---|---|
| 常勤監査役 | 市川 明彦 |
| 監査役 | 鈴木 邦男 |

DIVA 10th ANNIVERSARY SINCE 1997

## おかげさまで10周年

当社は、1997年5月の設立から今年で10周年を迎えました。
今後も、皆様のご期待に沿えるようさらなるサービスの向上を図ってまいります。

**ロゴ解説**
10本の花は「さつき」をモチーフに作成。「さつき」は5月（皐月）に咲くことから命名されたツツジ科の花。

## 株主メモ

| | |
|---|---|
| 事業年度 | 毎年7月1日から翌年6月30日まで |
| 定時株主総会 | 事業年度末日の翌日から3ヵ月以内 |
| 基準日 | 6月30日 |
| 株主名簿管理人 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 |
| （郵便物送付先及び電話照会先） | 〒137-8081<br>東京都江東区東砂七丁目10番11号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部<br>電話0120-232-711（フリーダイヤル） |
| 同取次所 | 三菱UFJ信託銀行株式会社　全国各支店 |
| 公告の方法 | 電子公告により行います。<br>（http://www.diva.co.jp/）<br>ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 |

## ホームページのご案内

当社ホームページでは、株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しております。当社をよりご理解いただくためにも是非アクセスしてください。

**URL　http://www.diva.co.jp/**

TOPページ

IRページ

現在のロゴは二代目、2006年7月に DIVA® マイナーチェンジを行いました。

### 社名の由来

DIVAはラテン語で歌姫を意味します。
経営情報の歌姫として、経営情報を多くの企業関係者へ魅力的に伝えることを通し、
企業の経営品質向上に貢献するという思いを込めています。
この意味がグローバル的にも理解しやすいようラテン語を語源とする言葉DIVAを選びました。
きっかけは、フランス映画、ジャン・ジャック・ベネックス監督の「DIVA」です。

### タグライン

*To be opened to change!*

変化に対して前向きにどんどん成長していこうという意気込みをあらわしています。

**株式会社ディーバ**

〒144-8721　東京都大田区蒲田5-37-1 ニッセイアロマスクエア11F　Tel：03-5480-7600（代表）Fax：03-5480-7614
http://www.diva.co.jp/

PRINTED WITH SOY INK
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用し、大豆油を利用したソイ・インキを使用しています。